

# 中国・韓国陶磁展

愛知県陶磁美術館所蔵品による



12

中国陶磁は、高い技術と優れた造形によって、世界の陶磁器の発展に大きな影響を与えてきました。その歴史は古く、新石器時代の土器にまで遡ることができます。一万年以上に亘る歴史の中で、華南の青磁や華北の白磁、唐三彩をはじめとする優品の数々が生み出されてきました。10世紀頃からは、景德鎮窯や越州窯など数多くの窯が興り、中国全土で窯業生産が発達。宋代には釉色やフォルムの美しい陶磁器が、元時代以降にはあざやかな文様や彩色の施された陶磁器が、数多く作り出されました。

韓国では、10世紀、高麗時代に青磁生産が開始され、象嵌など特有の技法が開きます。朝鮮王朝(李朝)時代には、官窯で上質の白磁が作られたほか、地方窯では白化粧土で装飾された粉青沙器が生み出されました。李朝時代の磁器は、日本の茶人たちにも珍重されました。

本展では、愛知県陶磁美術館の所蔵品から、中国と韓国の陶磁器併せて約100点をご紹介します。悠久の歴史を持つ中国陶磁の完成された美、そして日本人にも大きな影響を与えた高麗・李朝の独自の美意識を展覧いたします。陶磁器の変遷や造形美を通して、東アジアの文化の魅力をお楽しみください。



4



1



2



3



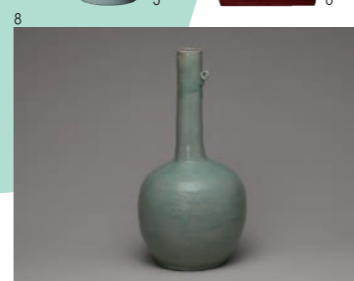
7



8



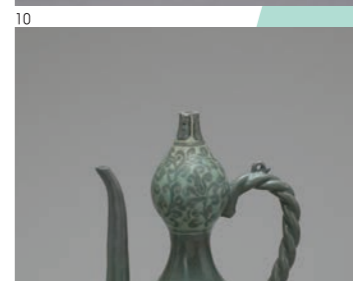
6



5



9



10



11



1.《靴皮天目碗》吉州窯 南宋時代(12-13世紀) 太田宏次コレクション 2.《白磁龍耳瓶》唐時代(7世紀) 加藤典陶コレクション 3.《青白磁劃花文碗》景德鎮窯 南宋時代(12-13世紀) 中島武則コレクション 4.《三彩駱駝》鞏義窯 唐時代(8世紀初頭) 5.《青白磁水注・承盤》景德鎮窯 北宋時代(11-12世紀) 太田宏次コレクション 6.《加彩女子俑》前漢時代(前2世紀) 7.《鉄沙龍文壺》朝鮮時代(17世紀後半) 李吉秀コレクション 8.《青磁半陽刻蓮花文長頸瓶》高麗時代(12-13世紀前半) 愛知県陶磁美術館保管、(独)産業技術総合研究所蔵 9.《彩陶双耳壺》新石器時代、馬家窯文化 10.《青磁象嵌蓮花文彫形水注・承盤》高麗時代(13世紀) 愛知県陶磁美術館保管、(独)産業技術総合研究所蔵 11.《灰陶猪圈》後漢時代(1-2世紀) 12.《青花故事四瓶》景德鎮窯 明時代末(17世紀) 中島武則コレクション

## 関連事業

### ●記念講演会

「中国と韓国の陶磁の魅力」(仮題)  
講師: 森達也氏(沖縄県立芸術大学教授、元愛知県陶磁美術館学芸課長、本展監修者)  
日時: 10月25日(日) 午前10時30分~12時  
会場: 新津美術館市民ギャラリー  
参加費: 無料  
定員: 80名(当日先着順、申込不要)

### ●連携展覧会

「～豪農伊藤家コレクション～  
北方文化博物館【中国・韓国の陶磁展】」  
会場: 北方文化博物館  
(Tel. 025-385-2001)  
会期: 10月18日(日)～12月20日(日)



東京工芸大学 写大ギャラリー開設40周年記念

# 土門拳写真展 — 古寺巡礼 —

土門拳は戦後の日本を代表する写真家の一人です。その粘り強くとことん撮る姿勢は「写真の鬼」と呼ばれるほどでした。報道写真家として、貧しくも逞しく生きる人々など、ありのままの姿を飾ることなく写し出した土門は、戦後のリアリズム写真を確立した写真界の巨匠です。その後、ライフワークとして40年の歳月をかけ100か所以上の寺院に向いて撮影した『古寺巡礼』(1963-75年発表)は、代表作として知られています。本展は、東京工芸大学 写大ギャラリーの開設40周年を記念して、中核コレクションのひとつである土門拳の『古寺巡礼』を中心にご覧いただけます。

日本初の写真教育機関として大正12(1923)年に創立された小西写真専門学校を前身としている東京工芸大学は、日本を代表する写真家や写真研究者を数多く輩出しています。1975年に第一線で活躍する細江英公が教授として就任すると、写真芸術に触れられる先駆的な場として、国内外の優れたオリジナルプリントを収集・展示する「写大ギャラリー」が開設されました。

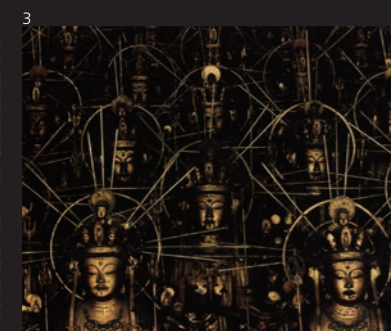
細江の根気強い要望に応えた土門の厚意により、写真集『古寺巡礼』と『自選作品集』収録作品から、写大ギャラリーのために1,275点がプリントされ納められました。今回は、その中から約150点を厳選してご紹介いたします。

日本の美を追求した力強い表現世界を心ゆくまでご堪能下さい。

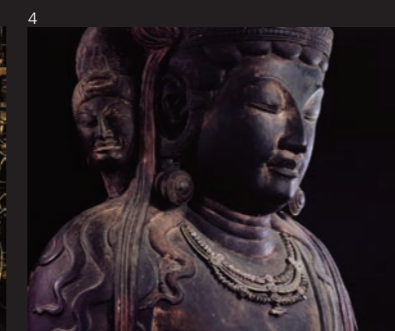
セルフポートレート (昭和33年撮影、土門拳49歳)



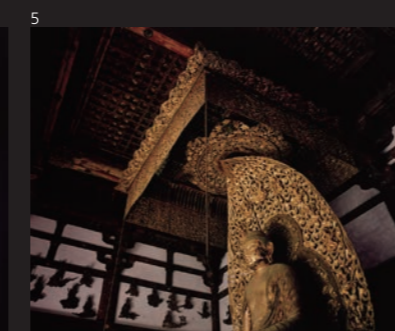
2



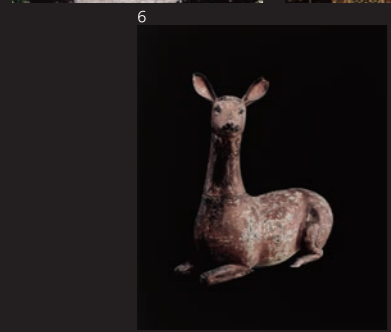
3



4



5



6



7



8



9

## ●開催記念対談

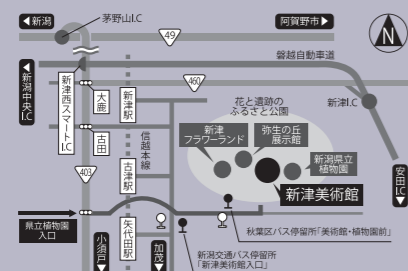
「土門拳と写大ギャラリーコレクション」 細江英公氏(写真家・東京工芸大学名誉教授)、吉野弘章氏(東京工芸大学教授)  
日時: 10月24日(土) 午後2時~3時 会場: 新津美術館市民ギャラリー 参加費: 無料 定員: 80名(先着順、要申込)  
申込方法: 10月1日受付開始、電話またはFAXにて「代表者氏名・住所・電話番号・参加人数」をお知らせください。  
新津美術館 (Tel. 0250-25-1300 Fax. 0250-25-1303)

## ●関連コーナー

「写大ギャラリーコレクション名作展示」  
会場: 新津美術館2階常設コーナー

## 新潟市新津美術館

〒956-0846 新潟市秋葉区蒲ヶ沢 109-1  
花と遺跡のふるさと公園内  
(新潟県立植物園となり)  
Tel. 0250-25-1300 Fax. 0250-25-1303  
http://www.city.niigata.lg.jp/nam/



## こどもタイム

会場に音楽が流れます。  
親子で会話を楽しみながら  
ご鑑賞ください。

日時: 会期中の第1・3木曜日・日曜日  
(11月1日、5日、15日、19日、12月3日、6日)  
午前10時~午後1時

## 託児サービス(無料)

日時  
会期中の第2・4の木曜日・土曜日  
(10月24日、11月12日、14日、26日、28日)  
午前10時~12時

対象  
生後6ヶ月~就学前のお子様(定員3名程度、先着順)

申込方法  
利用日の3日前までに  
電話(0250-25-1300)でお申込みください。

## 交通のご案内

**JR**  
・JR古津駅から徒歩約25分。  
・JR新津駅からタクシー約15分/JR矢代田駅からタクシー約5分。  
**お車**  
・会津若松方面から、磐越自動車道新津ICより約20分。  
・新潟市街地方面から、磐越自動車道新津西スマートICより約15分。  
※新津西スマートICは会津若松方面の出入りはできません。

**バス**  
●JR新津駅東口バス停から、秋葉区バス「新津駅西口行き」(発車時刻 9:25、13:10)に乗車約25分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩すぐ。  
もしくは新潟交通バス「矢代田経由白根・湯東行き」(発車時刻11:25、12:35)に乗車約15分、「新津美術館入口」で下車、徒歩約5分。  
●JR矢代田駅前バス停から、秋葉区バス「新津駅東口行き」(発車時刻 11:49、15:34)に乗車約10分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩すぐ。  
もしくは新潟交通バス「新津駅行き」(発車時刻12:13、13:16)に乗車、「新津美術館入口」で下車、徒歩約5分。

## 展覧会のご案内

**次回予告**  
「東区の隠れた名品展」・「新津美術館所蔵品展」  
2016年1月30日(土)~3月21日(月・祝)  
**同時開催**  
新潟市美術館 (Tel. 025-223-1622)  
「川村清雄展」  
11月3日(火・祝)  
~12月20日(日)

中国・韓国陶磁展  
土門拳写真展  
100円割引券  
●2展共通観覧券にのみ使用可。  
●1枚につき5名様まで。●割引券  
用不可。●複写(コピー)不可。